

変形労働制ではなく、せんせいふやそう!

止めよう! 変形労働制 12

「止めよう! 変形労働制」ニュース No.12

全北海道教職員組合

2019.11.7

公立学校への変形労働導入についてのアンケート(11/6) みんなで声を上げれば、状況は変えられます!

●アンケート開始から2週間～制度導入反対がさらに増加

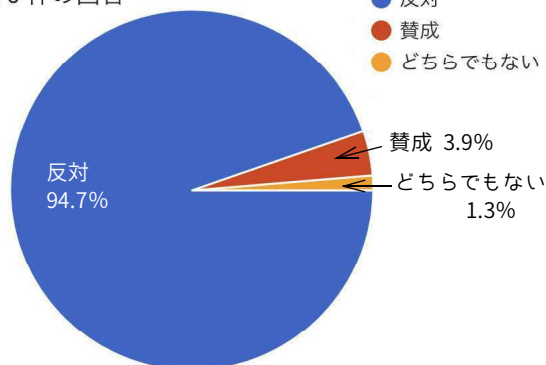
道教組・道高教組は、公立学校への変形労働制導入にあたって、緊急アンケートのとりくみをおこなっています。開始から2週間の11月6日現在、76件の回答が寄せられました。

反対意見は72件(94.7%)、賛成意見は3件(3.9%)、どちらでもないが1件(1.3%)となっています。

保護者の方からも声を寄せていただいています。教員の勤務の問題のみならず、子どもたちの教育条件の問題として、保護者や地域の方々にも制度の問題点を伝え、ともに声を上げる仲間を広げていきたいですね。

公立学校の教員に「1年単位の変形労働時間制」を導入することについて

76件の回答



●法案は、今日(7日)の衆議院本会議に上程

11月6日(水)に、衆議院本会議について議事運営委員会が開催され、公立学校への変形労働導入を可能とする「給特法の一部を改正する法律案」が、本日7日(木)に開催される本会議にて上程され、代表質疑が行われることとなりました。

8日(金)に文部科学委員会を開き、その最後に法案の趣旨説明が行われる見込みで、翌週13日(水)以降の文部科学委員会から本格的な審議が行われる模様です。

●みんなで声を上げれば、状況は変えられます!

大学入試への英語民間試験の活用について延期することを文科大臣が表明しました。これは、入試の公平さを損なうと多くの高校生、受験生や市民が各地で粘り強く声を上げ続けた結果です。

当事者が声を上げることで、状況は変えられるのです。

古来、「龍は嵐を呼んで天に昇る」と言われています。天に昇る状況が整うのを待っているのではありません。つまり、状況がないからといって待ったり諦めたりするのではなく、自らその状況を作り出していくということです。

変形労働導入について、私たち当事者が本気で声を上げ、変形労働導入ではなく定数増などの抜本的改善を求めていきましょう。



●アンケートに寄せられた声

①変形労働導入に反対する教職員の声

- まず人員を確保すること、業務の精選や分担を見直すこと、やるべき業務とそうでない業務を分けること、業務改善がなされなければ閑散期などありません。
- まず残業代を支給するか、残業をしないよう業務の見直しをするか。休業中が閑散期なんて現場を全く理解していません。教員が敬遠されるのはなぜかを考えていない。そして部活動を無理矢理やらせようという意図が見えます。断固反対です。
- 現場の実態をあえて考えないで話しているようにしか考えられない！
- 見かけの超過勤務を減らしたいだけとしか思えない。本質的には何も変わらず、働き方改革とは一体何なのだろうかと残念な気持ちでいっぱい。とても教育の質を高めようとしているとは思えない。
- ありえない。教育の崩壊が始まる。給特法の廃止と教員定数の増を求める。
- 人の暮らしも教育も豊かになるような発想が出てこない政府には退陣願いたいですね。教育を重んじなかったらますますこの国はおかしくなる。
- なぜ、教員だけが労働者の権利をもぎ取られ続けるのでしょうか。残業代も、8時間労働も、労使交渉の権利も。
- 今でも大変なのに、変形労働時間制でさらに大変になるなら反対です。大変さが軽減され、子どもとの関わる余裕が出来るならよいと思いますが、更に余裕がなくなりそう。
- 今の学校は、一年中超繁忙期です。人を増やして業務を減らさないかぎり、教員の健康を守ることはできません！！
- 子育て中の教員は仕事を続けられなくなります。平日の労働時間が長くなることは必至。労働時間延長になり「働き方改革」に逆行します。本当にやめてほしい!!!
- 減るのは見かけ上の残業時間だけ。例えば現在3時半に終わっている職員会議が4時半まで続くことになり、授業準備の開始がそれだけ遅れるのだから、実際の労働時間が増えることはほぼ間違いない。結果、休職や過労死も増えることが容易に予想できます。こんな制度は絶対に認められない。
- そんなことより、もっと人を入れてください。時間割上無理なカリキュラムを下ろさないでください。夏休みや冬休みを減らさないでください。土曜授業取りやめてください。
- 今ですら、休憩時間も取れずに仕事しているのに、繁忙期だからといって勤務時間をのばされたら、もう無理です。特に子育て中の先生は、絶体絶命です。
- 過労死やさらなる疲弊を生まないためにも、この制度には絶対に反対です。
- 民間英語試験といっしょで、設計めちゃくちゃ。最初からうまくいかないことは、みんな分かっている。
- 問題は労働時間の調整ではなく、①教師の業務の多忙化、②教師の業務の多様化、③教師の実践における裁量権の縮小による徒労感にある。この3つが改善されないまま、いたずらに労働時間のみ変動させ拘束時間を長くすることは心身に支障をきたすものと思われる。この制度には断固反対するものである。



②保護者の方々の声

- 保護者の立場から、これから小学校に上がる娘の事を考えると、先生にはゆとりを持って子どもと関わって欲しいです。目先の膨大な業務をきちんと労働時間として認める事も大切だと思います。しかし、それをこなすには教員の絶対数が足りていないと思います。良い教育を提供するためには自分自身のゆとりがあってこそだと思いますので、今一度立ち止まって考えて欲しいです。先生たちの困難を一緒に共有して共に声を上げていきたいです。
- 保護者です。子どもの小学校の担任の先生も否定的意見。残業代が欲しいそう。校内研修や免許更新、年次研修含め不要です！学校の教員に自由時間を！

